

【学術論文】

大学における外国語学習者の留学に関する考察  
—長崎県内のA大学の韓国語学習者を中心に—

崔 銀 景

A Study of Foreign Language Learners at a University:  
Focused on the Case from A University in Nagasaki Prefecture

CHOI EunKyung

Abstract / Short Outline (概要)

This study is based on the questionnaire from two groups of Japanese students at A University located in Nagasaki Prefecture who study Korean language; 23 students who are starting in 2022(pre-group) and 27 students who are currently studying in Korea(during-group). Both groups of students prefer studying with media such as K-movies or K-dramas. While pre-group prefers taking Korean classes for additional input, during-group learns by communicating with Koreans as much as visual materials.

However, during-group replied they have the most communication with Japanese instead of Koreans, and this problem seems to be caused by the fact that several students are sent to one university. Due to solve this problem, A University has increased the number of sister universities from 12 to 18 and allows up to two people for each one.

キーワード：韓国語学習者、大学生の海外留学、学習者不安、学習者期待

## 1. 研究背景

新型コロナウイルスにより、多くの大学において2020年度以降の海外派遣留学が中断され、留学に関する研究も滞っている。本研究は、コロナ禍でも海外派遣留学を正常化した長崎県内のA大学の事例を基に、韓国語学習者の韓国留学について留学開始前の学生と現在留学中の学生を対象にアンケート調査を実施した。そのデータを中心に、海外留学に対する学習者の不安と留学の現在状況を把握することで、今後の留学指導に役立つ手がかりを探ることを本研究の目的とする。

## 2. 先行研究

本稿では外国語学習者の海外留学を扱った先行研究について、韓国語学習者を対象とした韓国における論文と日本語学習者を対象とした日本における論文に分けて記述する。

韓国において、韓国語学習者の留学生を対象とした研究を概観すると、外国語に対する不安をテーマにした研究は2010年より多くなっており、留学生の学習態度に関する研究は2014年より活発に行われている(이윤주(イ・ユンジュ), 2021)。진미경(チン・ミギョン), 조유진(チョ・ユジン)(2011)は韓国の忠清地域所在の大学における中国人留学生の留学に対する不安を調べた結果、文化適応に対するストレスやホームシックを強く感じるほど、不安の度合いも高くなると報告している。

日本における日本語学習者の留学生を対象とした先行研究では、日本の大学の留学生にアンケートとインタビュー調査を行った結果、多くの留学生が自分自身の日本語使用について不安を持っているが、この不安は来日期間と関係がないことが述べられている(孫・山本, 2009)。小松(2012)は留学生の持っている留学に対する不安と期待を調査し、留学生が日本の社会・文化に対する経験や大学生活において高い期待がある反面、異文化適応や人間関係、日本の気候や文化に対して不安も抱いていることを明らかにした。この調査で、最も高い不安を表した日本の社会・文化と、最も高い期待を表した異文化適応が同様の意味で捉えられることから、慣れていない文化は留学生にとって不安の材料になると同時に、期待にもなることが読み取れる。

## 3. 研究方法

本研究は、A大学で韓国語科目を受講している日本語母語話者を対象として実施した調査内容に基づいている。2022年度を基準に、韓国留学を開始する予定の学生23名と調査時点で韓国にて留学している27名が本研究に協力した。調査を実施する前に、調査の趣旨と質問項目等について研究者所属の研究機関における倫理委員会より許可を受けている。調査は2022年1月31日から3月11日まで、Google Formによるアンケート形式で行った。研究者は調査協力者がアンケートに参加する前に調査の趣旨について説明をし、情報使用について同意を得てから調査を進めた。研究協力者の調査参加に強制性を持たず、自由な参加を促すためにこのアンケート調査は授業の前後ではなく、研究者が研究協力者へ個別に依頼したものである。なお、調査参加に伴う時間と労力に対し、研究者の所属研究機関による個人研究費で調査協力者に所定の謝金が支払われている。

アンケートの質問項目は 최태진(チェ・テジン), 백유미(ペク・ユミ)(2019)<sup>1</sup>の先行研究を参考に、人間関係と学業、健康面、文化適応に関する内容を抜粋して再構成した。留学開始前のグループと留学中グループに共通して質問した項目は「韓国語

学習関連項目」および「留学に対する不安と期待」である。これに加え、留学中のグループには現在の状況に関する項目を追加して質問した。

#### 4. 調査結果

研究協力者の学年分布は、留学開始前グループは23名中19名が1年生、1名が2年生、2名が3年生、1名が4年生で、留学中のグループは27名中12名が2年生、12名が3年生、3名が4年生であった。韓国語を専攻している学生は留学開始前グループでは23名中20名、留学中のグループは27名中26名であった。なお、26名のうち5名は英語専攻から韓国語専攻に転学科しているため、本稿ではこの学生たちも韓国語専攻として分類してある。これらの点を踏まえると、A大学における韓国留学希望者および経験者は両方ともほとんど韓国語専攻であることがわかる。

韓国留学のきっかけに関する自由記述式質問には、留学開始前グループは23名中18名、留学中グループは27名中19名が「韓国語の勉強・上達のため」と答えた。その他の学生においても、「言語や文化に興味がある・学びたい」との記述があった。

以下の図1は各グループの韓国語能力を直近1年間受けた韓国語能力試験（Test of Proficiency in Korean, 以下TOPIK）試験を基準に示したものである。

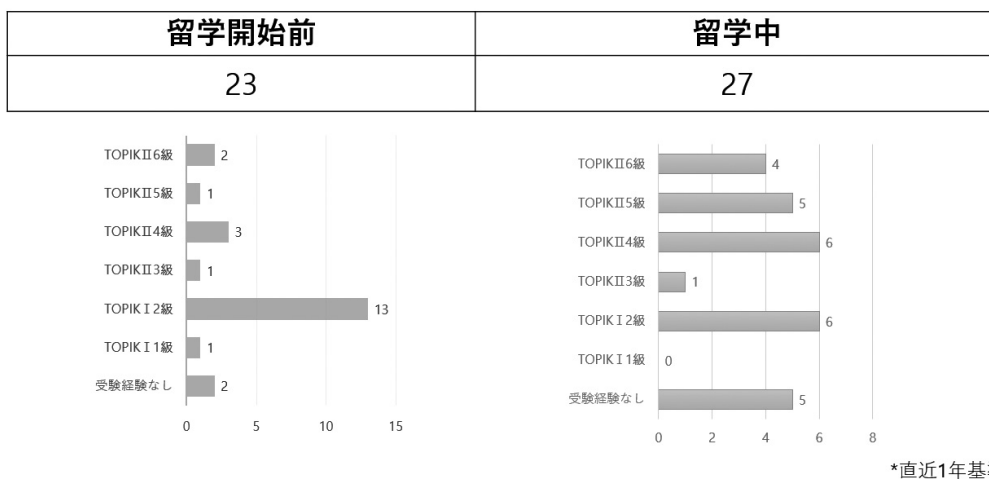


図1 調査対象者の韓国語能力（TOPIK基準）

留学開始前のグループは前述した通り19名が1年生である中で、TOPIK 2級を取得している学生が13名であることを踏まえると、留学を準備している1年生の多くがTOPIK 2級を持っていると言えよう。これについて、A大学の学内と学外の観点で考察することができる。A大学の学外の観点から見ると、A大学との韓国留学協定

校の多くが派遣学生に TOPIK2級を条件として要求しているため、留学を希望する学生は留学前までに TOPIK2級以上を取得しようとしているという点である。一方、A大学の学内の観点から見ると、1年生を対象としている韓国語の授業を履修した場合、TOPIK2級が取得できるようにカリキュラムが組まれているということである。

留学中のグループにおいては TOPIK 4級以上の学生が併せて15名であり、27名全員のうち約半分以上が韓国語中級レベルであることが確認できる。残りの11名は、受験経験無しが5名、TOPIK 2級が6名となっている。これらの学生も2年生以上であることを鑑みると1年生時と同様の韓国語能力を保持していると判断するよりは、留学開始前に TOPIKを受けてから留学開始後の直近1年間、再度受験していないことが推測される。続いて、以下の図2は韓国語のスピーキングとリスニングについて自己評価したものを表したグラフである。

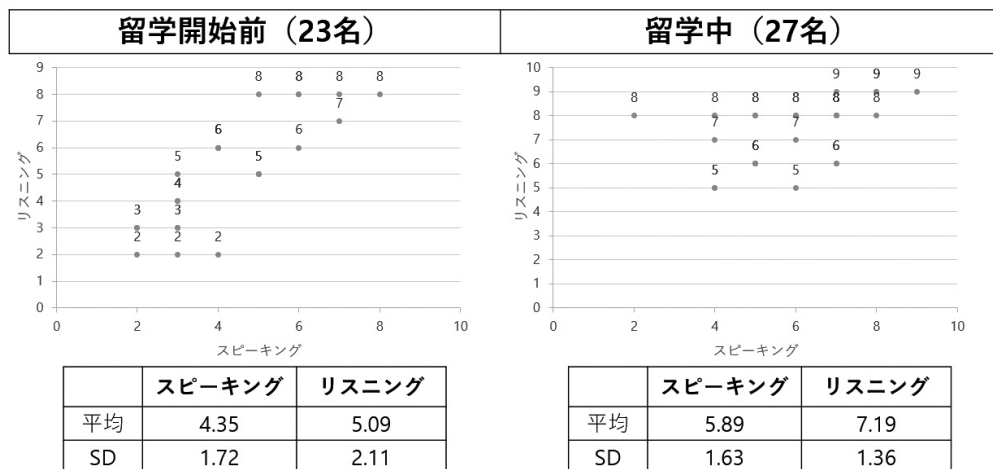


図2 調査対象者の韓国語スピーキングとリスニング自己評価

図2を見ると、どちらのグループもスピーキングよりリスニング能力を高く評価していることが分かる。また、一部を除いては全体的にスピーキングとリスニング能力において大きな差をつけておらず、点数が比例している傾向がみられている。

以下の図3はライティングとリーディングに関する調査対象者の自己評価結果をまとめたグラフである。

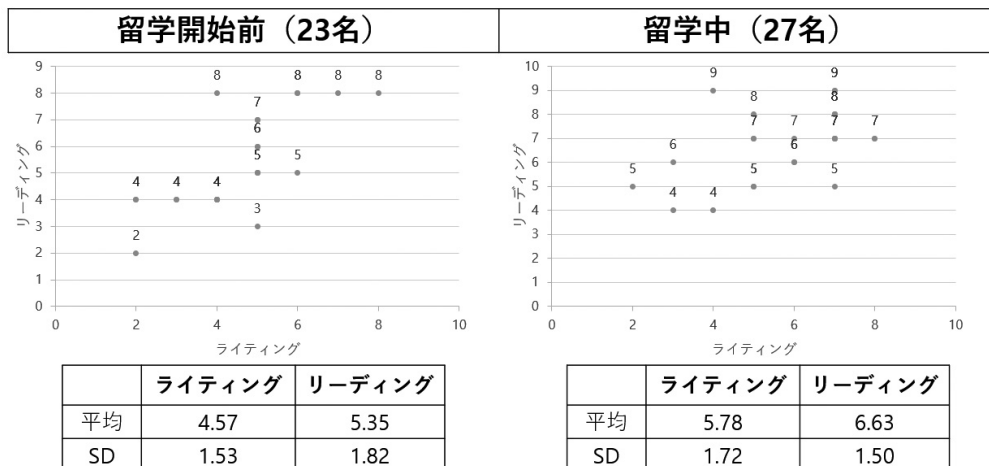


図3 調査対象者の韓国語ライティングとリーディング自己評価

図3を見ると、留学開始前グループは図2と比べてあまり点数の差が見られないが、留学中グループはリスニングよりリーディングを低く評価していることが分かる。また、ライティングとリーディングにおいてはスピーキングとリスニングと異なり、リーディングよりライティングの能力が低いと自己評価した学生が両グループとも多く見られている。どのグループも入力型<sup>2</sup>のリスニングとリーディングより、産出型<sup>3</sup>のスピーキングやライティング能力を低く評価する傾向が観察されている。

以下の図4は韓国語の学習方法に関する調査結果である。

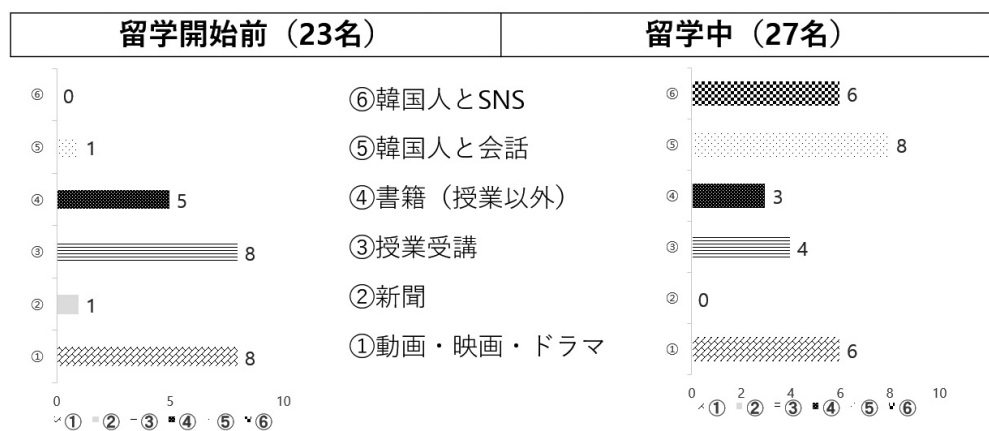


図4 調査対象者の韓国語学習方法

図4の結果から、留学開始前グループの韓国語学習方法として最も多いのは動画・

映画・ドラマの活用と授業の受講であり、韓国人と会話をしながら韓国語を学習すると答えた学生は1名のみと極めて少ないことが確認できる。この点に関しては、留学開始前グループの多くが1年生であり、またコロナ禍によりA大学の学内に韓国人留学生在が少なく、韓国人の友達を作る機会が減ったためと予想される。他方、留学中グループは韓国人と会話することで韓国語を勉強しているという返答が最も多く、動画・映画・ドラマの視聴や韓国人とのSNSを活用すると答えた返答よりも多かった。その反面、授業や書籍に頼る人数は少ないことから、留学中グループは韓国にて現地の韓国人と触れながら言語を学習していると推測される。

しかしながら、留学中グループは現在最も交流が多い人について、韓国にいる日本人と答えた学生が14名で、韓国人と答えた11名より多い結果が表れた。韓国語学習の一環として韓国人と会話をする、またはSNSなどで交流はするが、やはり日本人との交流の方が多いと思われる。

続いて、留学に対する不安と期待に関する調査結果を述べる。以下の図5は留学に対する不安に関して調べた結果である。

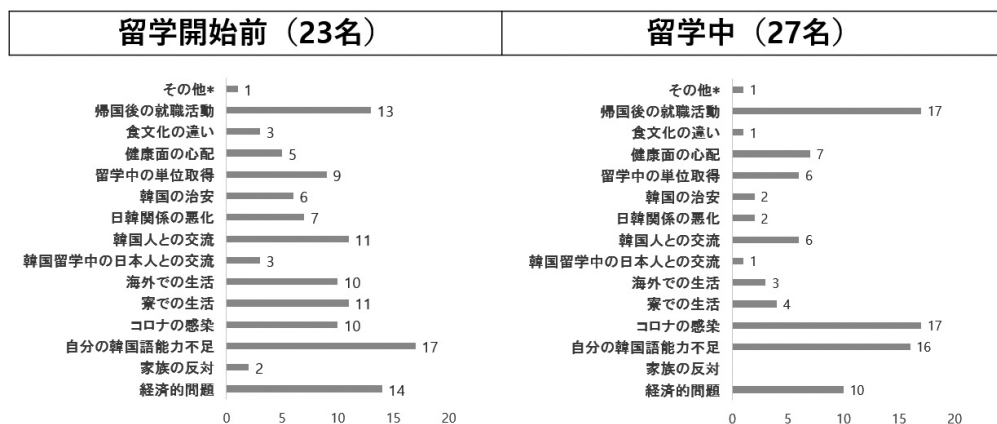


図5 調査対象者の留学に対する不安（複数選択可）

上記、図5の質問においては、最も不安に思う要素を一つのみ選択させる質問項目も作成したが、ばらつきが多く、全体の傾向が見えづらかった。そのため本稿では、該当する項目を複数選択が可能であった設問に対する調査結果を中心に述べる。

留学開始前のグループは留学に対し、最も多くの学生が不安に思っている要素は自分の韓国語能力不足である。続いて、経済的問題や帰国後の就職活動についても多くの学生が不安要素として回答している。留学中グループの場合は学年が高いこともあり、帰国後の就職活動に対して不安を感じる学生が最も多く、コロナの感染に対する

不安と同数の結果が確認できる。自分の韓国語能力不足も少しの差はあるが、多くの学生が不安であると回答している。いずれのグループも自分の韓国語能力について不安も持っていることは、先行研究にて述べた孫・山本（2009）における、留学生が日本語使用に不安を持っていることは在日期間と関係がないという記述と酷似している。孫・山本（2009）の調査対象は留学生であったが、本研究は留学生と留学前の学生の両方を対象としている。その点を踏まえると、外国語学習者が留学時の目標言語使用に不安を抱くことは、学習者の留学開始有無にも関係がないと言えることができよう。

続く図6は、留学に対する期待について調査した結果である。

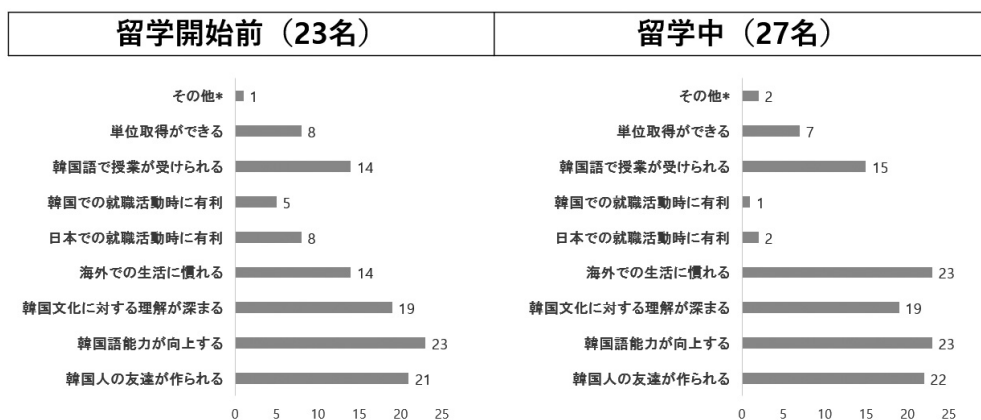


図6 調査対象者の留学に対する期待（複数選択可）

図6を見ると、留学開始前グループは韓国留学に対し、韓国語能力の向上を期待している学生が最も多いことが分かる。韓国人の友達を作ることや韓国文化に対する理解なども多く挙げられている。留学中グループも同じく韓国語能力の向上を期待している学生が最も多かったが、それと同時に海外での生活に慣れることに期待しているとの結果が見られた。また、韓国人の友達を作ることや韓国文化に対する理解なども多く挙げられている。なお、留学に対する期待に関する質問項目では、最も期待していることを一つ選ばせる設問において、その傾向の違いが明らかになっている。詳細は以下の図7を参照されたい。

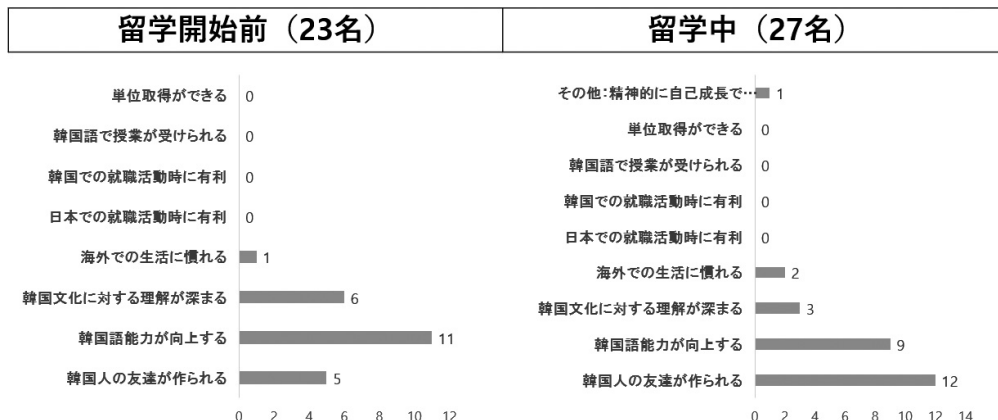


図7 調査対象者が留学に対し、最も期待していること（単一選択）

図7を見ると、留学開始前グループは主に韓国語能力向上に対する期待が多く、留学中グループは韓国人の友達を作られることに期待する学生が最も多いことが分かる。留学前グループは1年生が多いこともあり、まずコミュニケーションができるよう韓国語能力を上達させることを優先していると同時に、留学にいけば韓国語が自然に伸びると期待していると思われる。一方、留学中グループは全員2年生以上であり、韓国語能力が中級以上の場合が多く、一定の韓国語能力があると考えられる。そのため、韓国語能力の向上より実際に韓国語でコミュニケーションできる友達を作ることが大切であると感じていると思われる。

この質問項目については、両グループにおいては共通した傾向も見られている。留学に対する期待を複数選択させた質問項目には、韓国語で授業が受けられることを期待していると回答した学生が留学開始前グループで14名、留学中グループで15名いたが、それを最も期待している学生は0名である。これは、A大学においても韓国語で授業が行われており、かつ学生にとって留学の目標が韓国にて授業を履修することだけではないからと推察される。

帰国後の就職活動に対して多くの学生が不安を持っていると回答した結果は図5に示してある。しかし、上記の図6と図7を比べると韓国留学が韓国と日本を問わず、帰国後の就職活動に有利であると期待している学生は少ないことが分かる。この結果から留学と就職活動に関して、3つの仮説をあげられる。

まず1つ目は、学生たちは韓国留学することにより、帰国後の所属大学における単位認定問題や日本を離れるために就職関連情報に遅れるのではないかと心配しているということである。次に2つ目は、就職活動に対する不安はすべての学生が抱えている不安要素であるため、韓国留学有無とは全く関係がないということである。言い換



えると、韓国留学では学生の就職活動に対する不安を軽減できないといえよう。コロナ禍により、観光業界など韓国語能力を生かして就職できる企業が少なくなっていることが大きく働いていると思われる。最後に3つ目は、当調査に参加した時点ではまだ就職活動を始める4年生になっていないため、調査時点においては就職活動より韓国留学そのものに重点を置いているということである。

## 5. まとめ

本研究はA大学における韓国語学習者を対象に、留学開始前グループと留学中グループに分けてアンケート調査を実施し、今後の留学指導に役立つ手がかりを探ることを目的としている。前述した調査結果に基づき、本稿では以下の4つについて考察していくこととする。

まず1つ目は、本稿の調査結果によると留学開始前グループと留学中グループの両方ともほとんど韓国語専攻の学生であるということである。これは、あくまでA大学の事例であり、韓国語専攻がない大学など複数の大学における留学調査を実施し、専攻と留学の関係など、より様々な変数を見出す継続調査が必要であると言える。2つ目は、留学開始前の学生は韓国人の友達が少ない状況にあるため、留学前から多くの韓国人と触れ合うよう、学内の交流機会や協定校とのオンライン授業を導入する必要があるということである。これにより、学生たちは教室の中だけでなく、教室の外でも韓国語や韓国文化に触れることができ、より多様な方法を用いた学習が可能になると予想される。

3つ目は、留学中グループの学生が留学中にも拘わらず日本人と最も多く交流していると回答した件にどう対応するかである。調査時点でA大学は一つの協定大学につき5名以上派遣しているところもあった。しかし、2020年度の時点で12校であった韓国協定校を2021年度には18校に増え、一つの協定大学につき最大2名まで派遣するよう、各大学における派遣人数が変更されている。このような派遣人数の変化が留学中グループの交流状況にどう影響するか、引き続きアンケート調査を行うことで確認できると思われる。最後の4つ目は、留学中グループは留学開始前グループより高い韓国語能力を保持していることである。両グループにおける学年の違いもあるため、この結果をもって留学有無と韓国語能力上達の関係を探ることは難しいと判断される。より正確な違いを考察するためには、今後、同学年の留学未経験グループと留学経験グループにおける比較が必要であると思われる。

A大学における留学開始前韓国語専攻者数と韓国留学希望者数は、年々増えつつある。本研究はこれからも留学開始前と留学中、留学中と留学終了後において学生の認識や状況がどのように変わるか調べ続けていく予定である。本研究結果が、A大学に

おける今後の留学指導に役立つことを心から願っている。

## 注

- 1 최태진(チェ・テジン), 백유미(ペク・ユミ)(2019)は韓国における外国人留学生に、生活、学業、健康、文化適応ストレスの4つに分けてアンケート調査を実施することで出身国別の違いを明らかにし、今後の留学生指導における対策を示唆した。
- 2 4技能の中で、学習者が目標言語(習得しようとする言語)のインプットとして受け入れるものを指す。リーディングは文字としてのインプットであり、リスニングは音声としてのインプットである。
- 3 4技能の中で、学習者が目標言語のアウトプットとして産出するものを指す。ライティングは文字としてのアウトプットであり、スピーキングは音声としてのアウトプットである。

## 参考文献

- 이윤주 (2021). 한국어교육에서의 태도 연구 동향 분석 - 외국인 유학생 연구를 중심으로 - . 배달말, 68, 205-235. [Lee, Y. (2021). Research Trend Analysis of International Students' Attitudes Towards Korean Language Learning. Korean Language, 68, 205-235.]
- 진미경·조유진 (2011). 「중국 유학생의 문화적응 스트레스가 불안과 우울에 미치는 영향」 『놀이 치료 연구』 14(4), 77-89. [Jin, M. & Cho Y. (2011). The Effect of Acculturative Stress on Anxiety and Depression among Chinese Students in Korea. Korean Journal of Play Therapy, 14(4), 77-89.]
- 최태진·백유미 (2019). 「외국인 유학생의 대학생활적응 탐색 척도 개발 및 실태분석: J대학 사례」 『문화와 융합』 41(6), 637-668. [Choi, T. & Baek, Y. (2019). The Effect of Acculturative Stress on Anxiety and Depression among Chinese Students in Korea. Culture and Convergence, 41(6), 637-668.]
- 小松由美(2012). 「国費学部留学生の留学初期における期待と不安について」 『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 38, 89-95.
- 孫毅權·山本広志(2009). 「短期留学生の日本語能力に関する自己上達感-台湾人留学生の場合-」 『山形大学紀要教育科学』 14(4), 399-414.
- 竹内理·水本篤(2012). 『外国語教育研究ハンドブックー研究手法のより良い理解のためにー』 松柏社